



阿波三峰

朝念暮念

中津峰山如意輪寺

徳島市多家良町中津峰
TEL088-645-0008 FAX645-0508

http://www.mnt.ne.jp/~nyoirin
nyoirin@mnt.ne.jp

バス便、4/16、4/29、5/3、5/5、5/21 9:30アミコ前発

親子の鐘の中津峰

問い合わせい合わせ：徳島市バス観光課 088-652-2133

おばあちゃん一題

月参りされているAさん
「三歳の子供が自転車で乗
り始めたので、交通安全の
お守りください」とお孫
さんですか。「うちの孫は大
きく医者です」「なら曾孫
「いえ近所の子供です。毎
日々々「おばあちゃん」と
やっています。しばらく留
守にすると「おばあちゃん
風邪ひいとんとちがうで
という心配してくれらるん
です。その子がこの間から
小さい自転車買ってもらっ
てお守りを受けたのです
それなら子供用の交通安
全と発育良好、学力増進と
いう、お母さんの願いが全
しょう」との会話。今も近
所の子供たちと地域の古老
との間にこういった人間係
があると感じました。大正一
桁のおばあちゃんならでは
の心意気であろうか。

間、外へ行けません。その
間ずつと絵本を読んでやっ
たんです。ほたら次々字
を憶えて今では漢字もだい
ぶ読みます」とは中のおば
あちゃん「この子が骨折と
は？」「ちよつと車にあっ
て、でも、不幸が幸いし
て、その間に字を憶えてし
まったわけですね」「ええ、
ここへ来るときも看板の字
を読むのですよ」「私は
今、やつと立ち上がるこ
ができましたが、ちよつと
前まで立てませんでした。
家の中で座ったまま足を延
ばして手で移動していまし
た。ギブスを見ていたこの子
は、抱いてくれたいわない
で、曾婆ちゃんの手をい
まの自由を動いていま
私のお後についてお佛壇を
拜むんです。般若心経お
おかたいえます。そつこつ
話をしているうちに本人は
あきてきた。「この鐘たた
いてもええ」「いいですよ
「トン」とたたいた。一
般的な子供の行動として鐘
をたたいたのは遊び。鐘
をたたきただけで終わりであ
る。が、この子はたたいて
後、手を合わせて拝んで
いる。「もう一回、たたいて
みなさい」といつと喜んでた
たく。そしてまた手を合わ
せ拝んでいる。

五度目の臓器移植

三月二十八日深夜、脳死
状態の人がいる。同時に
有珠山の噴火。二つに
スと重なって前回よりは
報道が少なかった。だが、
私は今回もあるむなしさを
感じた。一、法的脳死によ

る死亡。心臓は動き、身体
は暖かく、ひげは伸び、顔
色はよく、単に眠っている
にしか思えない。肉親が死
をどう理解したのだろうか
二、本人の尊厳意志を尊重
し、家族も無限の慈悲心起
こして臓器提供した。しか
し、移植となるとどうして

ああまで禿鷹のような行動
をするのだろうか。例えば
移植するチームの映像、一
人の大いなる菩提心に対す
る関係者の礼装だろうか。
三、この度は日本大学の病
院である。この大学は私で
も低温療法で有名と思うほ
ど日本の代表的大学であ
る。なぜ、この大学或いは
東大、慶応大等の都内の大
学では移植しないのだろう
か。四、これだけの臓器を
取り出した後どのような処
置をほどこしたのであるう
か。それを家族にどう説明
して納得してもらったのだ
ろうか。内臓全てガンに冒
され本人の遺言によつて病
理解剖を願った。内臓すべ
て取り去った。が、腹が詰
まって苦しんでいたのが、
この手術ですつきりしただ
ろうと。それは私の母への
気持ちをだつた。こんな納得
をまだ自分でせねばならぬ
のか。五、提供したものの
は大恩を忘れ、頂いたもの
は観を確立せねばこれから
の臓器移植は育たない。大
恩の報いるものは提供者へ
の恩という小さなものでは
ない。どこまで生きるかも
分からない一生を報恩の行
いにしむべきであろう。受
け取る側の餓鬼の如き生への
執着があつて成功する。ど
れをとつても人間の欲望そ
のもの。移植後、それを高
い次元に引き上げなければ
ならない。小欲から大欲
(菩提心)へ密教の奥義は
ここにある。

台湾新総統に

陳水扁氏当選

隣国の台湾次期総統に陳水
扁氏が当選した。台湾は日
本統治以降、昭和二十四年

に蒋介石総統の国民党が逃
れてきた。彼らは中国内の
共産党との内戦から逃げて来
たのだつた。この年ほぼ全中
国を支配した共産党、中華
人民共和国はこの年建国と
なる。

台湾人はせつかく日本が引
き上げ自分で国造りをはじ
めた矢先にまた台湾人以外
の国民党が政権をとり勝手に
国造りをはじめ、国民党と
ともに逃げてきた人々、所謂
外省人が権力と経済利権を
取つてしまった。本省人と呼
ぶ台湾生まれの人はじめめな
状態になつた。蒋介石、蔣経
国の時代と続く。国民党の中
華民国は建国の父、孫文を
継承し、昭和四十六年十月
二十五日、国連で中国の代
表権を失うまで中国の代表
同時に国連常任理事国だつ
た。蒋介石、蔣経国の時代
は滑稽にさえ見える全中国
の国家統治組織を有した。
因みに共産党中国も孫文を
継承する。

昭和五十九年、国民党副
総統に李登輝氏が就任。当
時、本省人李登輝氏の登用
は融和策だつた。副総統
は融和策だつた。副総統
が総統に昇格した。外省人
が本省人を治める構図から
「民主化」のスタートガンも
と本省人が実権を勝ち取つて
いった。平成八年には台湾
ではじめて全国民の選挙によ
り李登輝氏が総統に選ばれ
た。これで国民党をバックに
はしているものの台湾人の政
府ができあがつた。このとき
中国が軍事演習をして脅し
をかけ、アメリカ力が空母を
台湾海峡に進めたことを記
憶する。たぶんこのころか
らと思うが、英字誌ではプ
レジゼントと呼ぶ。日本人の
ように大統領、總統と区別

4月28日～5月7日 20世紀最後の御開帳

結縁御開帳

期間中の参拝バス 4月29日、5月3日、5月5日 9:30アミコ前発

問い合わせい合わせ：徳島市バス観光課 088-652-2133



しない。これが選挙による国際社会は国家の代表としてあつた証左である。また、国民はタイワニアーズと呼ぶ。李登輝氏は今までのアメリカ、日本を中心とした人脈と経験を充分につかいて中国をきりきり舞いさせた。そうした李登輝路線の延長上に今回の選挙結果がある。今回の選挙では中国は軍事的脅しをかければかけるほど台湾人の心は離れ、国際的信用も失墜していった。第一世代の国民党員は抗日戦争、共産党との内戦を戦った人たちだった。だが、李登輝氏は日本統治下で教育を受け、京都大学へ、国民党が台湾に来て、米コーネル大学を経て学究生活をおくった。のち政治に進出したため国民党に入党した。この経歴から、旧来の中国本土の奪還をめざす国民党員とは違っていた。氏の頭の中は台湾人による台湾をめざしていた。昨年、

台湾と中国は国家と国家のつきあいという二国論をとる。三月二十四日後継者が選挙に負けた責任をとって国民党総裁を辞任した。とはいえず、世界の歴史に残る政治家であることは間違いない。総統予定者の陳水扁氏は日本流に言えば団塊後期の人（昭和二十七年生、四十九歳）。台湾独立をうたつた民進党を命がけで育ててきた。呉叔珍、陳水扁婦人は昭和六十年、陳氏が台南県長選に出馬したとき、婦人が支持者へあいさつの際、交通事故に見せかけた地元保守勢力の政治テロで半身不随になった。こゝういふ危険のなか総統に選ばれるほどの力を培ってきた人である。今は中国を刺激しないよう台湾独立を言わないが、台湾は世界のなかの一つの国という前提のよゝうに思われる。北京とはあくまで対等が原則。考えてみれば氏の世代で一つの中

国など考えもつかないはずである。北京側はこうした時代感覚が相当おくれしている。武力干渉をほのめかせばほのめかすほど逆効果なのに。日本と台湾は国と国との外交関係は持たない。しかし民間特に経済関係は密接である。陳水扁氏は昨年だけでも三回日本に来た。自ら「李登輝さんに次ぐ親日家」と言う。しかし、李登輝氏時代のように日本語の関係というわけには行かない。これからどういふ人脈を作り上げていくかが日台双方の課題である。日本も与野党問わず、中国を遠慮することなく信頼を築かねばなるまい。

世界の指導者は世代交代している。陳水扁氏をはじめとして、イギリス、ブレア首相、ロシア、プーチン大統領、もう任期は少ないがクリントン大統領、或いは次期米大統領等々、団塊世代の指導者に代わりつつある。日本も世界の時流に合わせ世代交代しては

一冊の本文「だから、あなたも生きぬいて」大平光代著 講談社 千四百円

結論から先に言おう。子育て中のお父さんお母さん現代青春まつただ中の小学校高学年から高校生までの生徒諸君、小中高の学校の先生、青少年のかかわる全ての方、それから司法試験をめざす諸君すぐ本屋に飛んでいって読むべし。

著者、大平光代さんは弁護士。もちろん三大試験といわれる司法試験を合格した人である。テレビドラマ「ひまわり」や本書で司法試験が合格しやすいよつだがそれは間違い。普通司法試験は大学或いは大学院法学部の卒業者が何年か一日中勉強つけないと合格する。その合格平均年齢が二十七歳といわれる。その意味で著者は年齢的には早いほうだ。しかし、経歴がちよつと変わっている。著者は中学卒業（詳しくは通信教育で法学部卒）中学からいじめにあい。苦しんで割腹自殺未遂、暴走族仲間、やくざの世界、十六歳で極道の妻、離婚、ホステスという経歴である。

この本は涙の出世物語ではない。いじめの陰湿な現実を受ける側の心理状態、教師無知、親の世間体への的確な批判、友のうらぎりから割腹自殺、割腹後の身体の傷がいえた後、心のケアの貧しさ。そして、つねに仲間を求めてはうらぎりのくりにかえし、暴走族仲間からやくざの世界へ、そして背中に観音様の入れ墨。その心理がこゝういふものかと思知らされる。

二十一歳、縁あつて後に養父になる大平氏の根気のあつた道得、確かに、あんたが道を踏み外したのはあんただけのせいじゃないと思つて

親も周囲も悪かつたやろ。でもな、いつまでも立ち直ろうとしないのは、あんたのせいやで、甘えるな！とどなられ、きつかけをつかむ。彼女は最大の理解者大平のおつちゃんを支援グループにささえられながら、世間の中卒のハンディをなくすため、まずは宅建資格、司法書士と合格した。とはいも字を知らない、言葉が分からぬ、辞書の引き方を知らぬ。司法試験をめざすとまず英語に苦勞。一次試験の一般教養が幅広くて難しい。大学の教養課程を修了すると免除という制度を利用するため通信教育の入学資格から取得し、通信教育の法学部に学ぶ。同時に予備校へ通学して猛勉強。書くことで指先は腱鞘炎になつた。先述のグループの支援を得て見事に司法試験をストリートで突破した。

弁護士になつた後、母親を蹴つた等々の贖罪感を背負いながら、自らと同じような道を行く少年少女たちの更生のために働く。彼女の人生が少しでも役に立つならとテレビのルポタージュにも同意した。そのときのテレビのプロデューサー小林美穂さんは本書の「解説に代えて」のなかで、消せない過去の傷、彼女の背中の大きな入墨を撮影させた。弁護士としての責任が、なんぼのもんや。背中に入墨は「こゝまで落ちて、人生まだこれから。必ずやり直せよ」というこゝの証や。そういう一番組を作つてくださったと養父大平氏が代弁したという。司法試験に合格した五年前、二人の間で背中の入れ墨をめぐつてこんなやり取りがあつた。「入墨を消したらどうか」弁護士という社会的立場を考えたのか、養父はそうすすめた。彼女は首を横に振つたという。今までのことを全部消し去つて、何もなかったよゝうにのほほんとして暮らすといふのはちよつと違つと思つた。過去にしてきた事実

は事実として、一生背負つていくものだ。背負つたままの私で、何か世の中に役に立つことはないかと。そう思つて消さずいたんです。後略。別のインタビューによると心の傷のみならず、割腹のため横隔膜が作用していない、大きな入墨は皮膚呼吸ができないういふ障害を背負つていたといふ。

私は今まで相談にのつた数人の少女たちとオーバーラップしながらこの本を読んだ。私が相談に乗つたといふものの、中の先生のようでうわべだけだったのだな、いじめの現実はいささか深かつたのか、更生にも良い仲間が一番なのだな。等々をその時々を思い出しながら読んでみた。彼女たちも今を正しく生きているだろつかと思つた。

本書にはルビ打つてあり、小学校高学年から司法試験受験者まで読める。編集者もそうであるよゝう意識して編集したのだろ。当山に来た今度中学に進む娘さんは本書を一気に数ページ読んでしまつた。三月末現在有名書店の店頭にくさん積んである。本誌が出るときは百万部を突破しているだろ。う。でもまだ少ない、一家に一冊あつて良い本だ。

四月の佛事 佛生会 別名花祭り

四月八日、お釈迦様生誕の日。昭和三十年代頃まで当山でも朝早くから大釜に甘茶を炊いて用意した。その頃はまだ今のよゝうに甘い飲料水が出回つていなかった時代。子供たちの良い飲料水になつた。また、甘茶で墨を擦つて、クレジットカードを二つ立て合わせたほどの紙に「五香水」或いは「白佛言」と書き、柱の根元に逆さに貼る、長虫（蛇等）側から見ると正常に見えるいう、それを見て入つてこられない。

長虫は字が分かるのか？この紙は腐食するの字だけが残るのが不思議だった。お寺では小さい花御堂の屋根を時の花で葺いて荘厳する。中には、天上天下唯我独尊」と右手を上左手を下したに指さした小さい誕生佛をおまつりし、甘茶を頭からかけて供養する。これらの甘茶はお釈迦様の誕生と同時に甘露の雨が降つたといふ故事によるもの。さて、佛教とはお釈迦様が生まれ、さとりを開いて覚者即ち佛陀になつた。その後、鹿野園ではじめて

五人の比丘に説法（諸転法輪）した。五人の比丘が帰依して佛教教団が成立したと教科書にある。でもそれは我々の世界（此岸）の論理、佛様（彼岸）の論理は佛教は無限の昔よりあつた。その一人の佛陀がこの世を済度するためお生まれになつたのだと。天上天下唯我独尊、これを物語るものか。法会前に記した語りもこのいささつを歌い上げ、讚、伽陀、和讃で賛嘆する音楽（声明）法会である。